

事業所における自己評価結果(公表) 【児童発達支援】

公表: 令和4年2月28日

事業所名: こどもの家すくすくしえんせんたー風のことり

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		1.基準に準じた部屋の広さになっており、基準以上の人数にならないように、子どものクラス編成も行っている。 2.日々の人数を確認しながら、適切に定員が守られています。 3.グループ合同での活動を行う際は、開放部屋にする等の工夫をしている。 4.1部屋10人未満を意識しながら、グループ構成をしています。棚を仕切りに使ったり、棚を端に避けて空間を広く使うなど工夫しながらしています。 5.利用人数に対して多い時には、お部屋を変える等の改善を図ることもあった。子どもの人数がオーバーしないよう、人数の設定がされている。 6.子どもたちの様子によって棚を広げたり、あえて狭い空間にして落ち着いて活動に取り組めるように環境設定の工夫をしている。	今後も利用定員を守りながら、ロッカーの移動や解放部屋にするなどの工夫を行い、適切な運営ができるようにしていきたいと思えます。
	2 職員の配置数は適切であるか	○		1.4対1の基準に沿って、職員配置がされており、子どもの様子や活動内容によっては、基準以上の職員配置をする等、支援の部分でも手厚く、適切に配置されているように思う。 2.職員の配置に関しては十分配置できています。子どもたちの人数だけでなく、様子や状況によって、活動に職員が入る等臨機応変に対応しています。 3.子どもの特性やそのときの状況に応じて、職員を配置している。 4.子どもの様子に応じて職員配置を増やしていることもあります。 5.子ども4人に対して職員配置は1人ですが、子どもの状況や活動内容によって2人や3人入ることで、丁寧な関わりに繋がっています。 6.子どもの様子に合わせて、人数を多くしたりして臨機応変に対応している。 7.グループの子どもの特性や活動内容に応じて職員数を増やすこともある。 8.職員が1人で入る少人数でも様子や活動内容によって補助をする職員が場面に入る時もある。基本的に職員配置数は、適切であると感じている。 9.子どもの様子に応じてプラスで入るようにする時もあります。	随時、適切な人員の配置で療育を行っています。子どもたちの状況や様子をみながら、丁寧に療育が行えるように、今後も職員の配置数を考えていきます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		1.登園してからの身支度の流れに合うように、水道やトイレの設置がされており、子ども達にも分かりやすい構造になっているかと思う。車椅子の方が利用できるように、エレベーターも設置されており、玄関までのアプローチ、玄関の段差も低めの為、使いやすいのではと感じる。 2.見通しが持てるように配慮しています。 3.水道の端の部分に保護カバーをつけたり、子どもの手の届く場所に危険な物(ハサミなど)は置かないようにするなど環境を整えています。子どもの情報は、朝の打ち合わせなどで全体で確認するようにしています。 4.流れが分かる絵カードを掲示している。	子どもたちが過ごしやすく、見通しをもって行動できるようなシンプルな構造になっていると思えます。それぞれの子どもたちの状況に合わせて環境設定を行っているが、行き届かないところがないように、職員の共通理解を徹底できるようにしていきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		1.毎日の消毒チェックを職員で交代で行なっている。子ども達の生活空間に関しては、適宜職員同士で片付けるなど、保とうとはされている。 2.毎日の掃除に加えて、日々の消毒などを徹底しています。 3.活動後のイス、ドアノブ等の消毒を行っている。また、活動後のモップ掛けや掃除機、消毒を毎日行っている。活動内容によって棚の位置を変え、活動に合わせた空間を作っている。 4.身体をたくさん動かすのであればロッカーをなくして空間を広げたり、集中して話を聞いてほしい時には空間を狭くしたりと、活動や子ども達の人数、様子に合わせて各自工夫している。 5.はいと回答したが、物を置きっぱなしにしている所などがあるので注意したい。 6.毎日の清掃を行い、水回りは最後使い終わった際にはタオルで拭き上げを行っています。朝、出勤した際には廊下や階段、玄関の清掃、各お部屋の消毒を行い感染対策にも留意しています。子どもたちの活動に応じて空間設定を変えるなど工夫しています。 7.毎日清掃をしている。消毒も交代で行うようにし、月の清掃点検も例年に比べて細かくみんな出来るようになったと感じる。	保育材料等の物の置きっぱなし等は、今後片付けや整理整頓をさらに徹底していき、子どもたちの目に触れる事がない場所への片付けなどをきちんとしていきたい。おもちゃの消毒や、館内の掃除、消毒なども今後も丁寧にしていきたい。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		1.活動ごとに反省を行ったり、改善が必要なものに関してや、対応を新たに定める場合など、必要に応じて、職員全体への周知や、話し合いがある。 2.半年ごとの支援計画の立て直しはもちろんですが、子ども達の目標達成度に合わせて、支援計画を見直して、保護者と共有しています。 3.事前に打ち合わせをし、活動後には活動に入った職員で振り返りをしています。 4.活動前の打ち合わせの際に目標を職員間で共通認識し、活動後に振り返りをしています。活動後が難しい場合は、それぞれで時間を見つけて簡潔に改善点や子どもの様子を共有している。	今後もPDCAのサイクルを念頭におきながら、日々の振り返りを行っていきます。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		1.管理者の先生より、保護者向けの評価表についての結果を、職員全体へ周知があった。また、改善が必要なものに関しては、対応策をその場で全員で協議して、改善に努めている。 2.自己評価の結果について職員で共有し、改善につとめています。 3.毎年、保護者に対して評価の実施を行っている。保護者の方々の意見を元に、改善できるようにしている。 4.アンケート回答終了後、一覧でプリントしたものを職員全体で内容を確認し、改善点があれば話し合う時間を設けている。	保護者向けの評価表を全職員で共有し、改善すべきところは、すぐに対応しています。今後も保護者の方からの評価表の結果を共有していき、改善の必要があるところについては、対応を検討していき、より良い施設、支援につなげていけるように、努力してまいります。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			保護者の方の実際の声を聞き、自分たちの意識を高めながら、より良い支援を提供できるように改善していきます。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		1.毎月、法令で定められている研修はもちろん、職員が知りたい内容や、子どもに関する知識などを、職員が交代で主になって研修を行っている。 2.園内研修は充実していると思います。コロナ禍で研修への参加はなかなか難しいところがありますが、出来る範囲リモートでの参加や書籍等での学習など、質の向上に各自つとめています。 3.毎月、園内研修を実施している。また、外部の研修にも参加している職員もいる。 4.月に1回、園内研修を行っています。 5.職員研修を行い、それぞれが研修のために文献を見て、資料を作成し説明をしたりしている。それぞれの資質向上に繋がっているように感じる。 6.園内研修は、年度初めに毎月テーマと担当が決まっており、その月で担当が研修をしている。感染症拡大により法人研修や外部研修の機会は減っているが、例年法人研修や外部研修にも参加している。 7.月に一回様々なテーマで園内研修が行われる。受けるだけでなく、自分が担当になるとさらに学びにつながる。	職員の研修については、療育の実践につながる身近な内容から、自分たちで学んでいきたい興味のあるものを園内研修では行っています。外部への研修参加がなかなかできていませんが、書物、リモートでの研修を通して、質の向上につとめていきます。
10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		1.その子の様子や、保護者の希望に合わせて、発達検査へ繋ぐなどしている。また保護者へのアンケートも取り、保護者のニーズや思いを確認した上で、支援計画を作成している。 2.子どもたちの必要性に応じて、発達検査やセンターの紹介などを行い、適切な療育ができるようにしている。 3.各子どもの担当だけではなく、お部屋に入る職員同士でアセスメントを行い、情報を共有しています。 4.子どもの様子、保護者の意見、周りの職員の意見も聞いたうえで支援計画を立てている。それぞれの意見を聞いて行うことが出来るようになり、偏った見方にならないので良いと感じる。 5.各担当が子どもたちの更新日を把握し、支援計画の作成や面談日の調整を行っている。	児童発達支援計画をたてるにあたり、保護者へのアンケートや子どもの発達を把握したうえで、作成しています。また、必要に応じて、専門職による発達検査をおこなっています。今後も研修等を通して、子どもの発達の理解を深め、しっかりとアセスメントし、保護者のニーズに応えていけるようにしていきます。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		1.その子の様子や、保護者の希望に合わせて、発達検査へ繋ぐなどしている。 2.生活面や対人面などから子どもの現在の状況を把握できるようにしています。	法人共有のアセスメントツールや発達検査の結果をもとに、支援計画を更新しています。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		1.計画の際には、項目ごとの内容一覧を確認した上で作成を行なっていると思う。 2.支援計画の返しの時に、ガイドラインについてもふれながら、説明をしています。 3.家族支援、地域支援はあまり選択されることはないが、その子に必要なと感じる時には、選択して計画を立てるようにしている。	今後もガイドラインをしっかりと把握しながら、必要な支援の提供を行っていきたくと思います。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		1.児童発達支援を立てる際に、無理のない計画を立てるよう心掛け、それぞれに必要なと感じている支援を入れているので、日々の活動の中に組み込むことが出来るようになっている。	支援計画を確認しながら、毎日の支援を行っています。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		1.週の活動を行うにあたり、グループと一緒に職員とどんな遊びがいいかを話し合いながら、活動を決めています。 2.週毎に活動の内容が大まかに決まっているので、全体を通して決めることが出来るようになっている感じがする。実際に自分のグループの活動を決める時は、子どもたちの様子に応じた活動を一人で決めることも多いが、反省や日常の会話を通してサブや他の先生方にも意見をもらいながら、意見を取り入れて活動に入れるようになっている。みんなで助け合いながら決めることができていないかを感じる。 3.基本的には、お部屋に入るリーダーが作成しているが活動内容などは一緒にいる職員や他の曜日に担当している職員同士で内容が適切かなどを話し合っており決定している。 4.活動について悩んだ際には、周りに相談したりして意見を求める。	グループに入る職員同士、連携をとり、立案内容を検討しながら、活動のプログラムをつくらせていくようにしていきたいと思っています。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		1.週ごとに活動の大まかな内容が決められている(感覚あそび・運動あそびなど) 2.週を通して遊びを計画している。 3.活動内容を1週間ごとに設定しており、毎月のお便りに掲載しています。 4.自由遊び、活動、副活動すべてにおいてマンネリ化しないように、と目標を持って立てている。ただし、継続した活動をしたという目標もあるため、子どもたちの様子を見て必要だと感じたり、子どもたちが自主的に楽しそうに行う遊びは継続して行うことで成長がよく見られることから、あえて固定化させている物もある。 5.毎月のお便りに各週の活動内容やねらいを設定し、それに沿って活動内容を決定している。お便りは、保護者にも開示しているため、保護者も確認しやすくなっている。	活動に偏りがないようにあらかじめ週ごとに活動内容が決められており、次の登園日へのつながりやあそびの発展も大切にしています。今後も色々な遊びを経験できるようにバランスよく計画を立てられるように気を付けていきたいと思っています。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成しているか	○		1.自由遊び、リトミック、主活動と区切られているので、自由遊びの中に個人の課題に沿った活動を取り入れる等、それぞれのグループで個別/小集団での活動のバランスを考えて行っている。 2.個別に対応したい部分は事前の打ち合わせで、確認しています。 3.個別、集団に合わせた計画を入れている。意識的に、とはいえませんが自然と個別と集団に合わせた計画がどの子も入っているのではないかと感じる。	今後もそれぞれの課題となるところを個別や集団を適宜組み合わせながら、計画を作成していきます。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		1.毎朝、活動部屋又は事務所で日案を見ながら、打ち合わせを行なっている。 2.必要な事柄を職員間で共有し、サブだけでなく、必要に応じて他の職員にも伝えるようにすることもある。 3.職員の配置や場面に応じた対応の仕方などを職員間で違う支援にならないように配慮している。	活動前の打ち合わせで、子どもたちの課題をきちんと確認しながら、様々な出来事に対応できるように準備をしっかりとしていきたい。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		1.必ず入った職員で反省を行なっている。 2.次の支援につなげられるように、打ち合わせを行っている。 3.金曜日の午後などは人数と時間の関係上、時間が限られている日はパソコンで反省や日誌を打ちながら入った職員同士で反省をするようにしている。午前活動後の反省は時間を設けて行っている。 4.活動後に話しをし、難しい場合には時間を見つけて簡潔に行うようにしている。	今後も活動の打ち合わせや反省をその日に行いながら、情報共有を漏れのないように日頃から行うようにしていきます。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			記録をとるだけでなく、その情報を職員同士がしっかりと共有できるように、発信や言葉かけを大切にしていきたいと思います。
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			子どもたちの登園形態、登園日数等、支援内容の変更をその都度行い、半年に1回以上は見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携関係	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			児発管を中心に必要な状況によっては、担当等も同席している。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○			母子保健、地域支援者の会等には今後も積極的に参加していきたいと思います。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○		1.対象児がない為未回答です。	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		1.対象児がない為未回答です。	
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		1.園側に出向いて、登録児の様子をみたり、反対に園側の先生方に風のこりでの様子を見ていただく機会を作っています。	担当者会議を通して、情報の共有を図っているところです。また、療育の場を卒業して、地域の幼稚園や保育園のみで、就学にむかっていく子どもさんへも移行支援シートを作成する等に対応しています。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		1.移行支援シートを作成して卒園時に渡しています。 2.就学を控えた児童の情報を共有する場に職員が出向いたり、来年度就学する学校へ出向いて、児童の様子を伝えるなどしています。 3.移行支援シートを活用して、小学校へ必要な情報を入力できているか担当、主任、管理者で確認して書類を作成している。 4.就学前に子どもの様子を就学先にお渡しし、子どもの様子や関わり方を共有している。	小学校への引継ぎは、移行支援シートや会を設ける等に対応しています。 子どもたちが安心して、就学を迎えられるように途切れなく支援が継続していけるよう引継ぎを今後も行っていきます。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		1.公開療育やセンター連絡会等を通して、他の事業所と会う機会を設け、話が出る場面を作っている。 2.当施設で公開療育や事業所連絡会を実施したり、外部の公開療育にも職員が参加する中で、お互いに連携を図っている。 3.公開療育を開催して、事業所の取り組みを見ていただく機会を作っています。 4.公開療育など外部の療育を見に行き、自分の学びを深める。	外部研修や公開療育等を通して、自分たちの療育を振り返りながら、改善点を見つけ、よりよい支援ができるようにしていきます。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		1.幼稚園、保育園に併行通園している子は活動する機会があります。	地域の保育園や幼稚園に併行通園先として通われているお子さんが全体の7割以上いらっしゃいます。ことりとしての交流はありませんが、就園に向けての相談や連絡等は行っています。
29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		1.地域の子育て安心ねっと会議に参加している。	今後も機会があれば参加していきます。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		1.連絡帳や送迎時に、子どもの様子を登園日には必ず伝えるようにしている。 2.今日した活動の中で、気になるところはその都度保護者に伝えるなど、情報を保護者と共有できるようにしています。 3.バスの助手が直接保護者や並行通園先にその日の様子を伝え、システムを通じて保護者にも活動内容と子どもの様子について伝えている。ケガ等があった時には、電話での対応を行うようにしている。 4.日々の療育の様子を連絡帳にて報告し、自宅送迎や保護者送迎の際に情報を共有している。また、半年ごとの支援計画を返す際の面談でも近況や保護者の話を聞き、風のこりでの様子もお伝えしている。 5.連絡帳で詳しく伝えるようにしています。	連絡帳、送迎時の引継ぎなどを通して、子どもたちの状況を共有しています。今後も、子どもたちの様子をわかりやすくお伝え出来るようにしていきます。
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		1.月に1回、「母親教室」を実施し、少人数で保護者同士の交流を図ったり、子育てについて学んだりする場を設けている。 2.毎月、母親教室を行っています。	法人の心理士と連携をとりながら、今後も保護者の皆様へのよりよい支援ができるように努めていきたいと思います。
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		1.契約の際に管理者と運営規程を伝え、法人の概要をお伝えしている。	契約時に行っています。また、館内にも掲示してありますので、保護者の方と折に触れて、お話をしていければと思います。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		1.該当項目にペンでラインを引いてから、保護者に渡すことで、分かりやすくなっていると思う。	支援計画の更新の時に、今後ご説明させていただきます。
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		1.母親教室を実施する中で、保護者の悩みに寄り添ったり、母子活動の中で子どもへの関わり方を助言したりしています。 2.母子登園で通う保護者には、家庭での様子も聞いたりしながら、その中で悩みの相談があった際には、私自身が答えられる範囲での助言を行ったり、支援に組み込むようにしている。また、自分では解決できない問題は上長や他の職員に相談をしたりしながら、一緒に課題に向けて取り組むようにしている。 3.話を聞き、必要に応じて個別で保護者の方と面談を行っている。 4.自分だけの意見ではなく、他の職員の方にも共有し、様々な視点で考え、お伝えするようにしています。	日々の振り返りや支援計画を通して、お話する機会を設けています。また、必要に応じて、心理士との面談や管理者との面談なども設けています。今後も保護者の方の希望がありましたら、随時面談等をおこなっていきたく思います。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		1.母親教室を開催し、保護者同士で話をする場の提供や、資料等を通して職員と一緒に子育てや子どものことについて学ぶことができるようにしている。 2.保護者会等は無いのですが、月に1回、母親教室を行っています。 3.保護者会は開催できていませんが、就学を迎える前に就学を考える会を開催したり、毎月母親教室を実施する中で、子どもへの関わり方などを伝え合う場を設けています。 4.母親教室が保護者の交流の場になっているのではないかと感じる。母子登園に限らず、分離登園が参加出来るような方には声を掛けたりしながら、行っている。 5.就学を考える会では、卒園児の保護者の方に来て頂き、話をさせていただく機会を作っています。	保護者会がありませんが、保護者同士のつながりとして、母親教室や子どもたちへの手作りクリスマスプレゼントの製作、就学を考える会での先輩お母様からの講話などを通して、交流できる機会を設けています。 感染症等の対策をとるなどして状況をみながら、交流できる場を提供していきたいと思います。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		1.就学、就園、併行通園とのやりとり、家での困り事等、その都度対応して、担当職員や、管理者と面談を設定している。 2.相談などを受けたらまず主任や管理者に報告すると同時に、朝の打ち合わせで報告したり、個人ファイルにも記録を残しておくことで全体周知にも繋がっていると思う。 3.それぞれの家庭の事情を考慮し、午前登園が難しく登園が安定しない時には振替で午後登園を進めたりバス送迎の対応をとる等している。その為、不定期に登園だった子どもも登園が安定してきている状況もある。	それぞれのニーズにできる範囲答えています。受け入れの人数の関係で、ご希望に添えない場合もありますが、相談や登園日の調整など、今後も可能な限り、対応させていただきます。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		1.毎月おたよりを作成し、活動内容や行事予定を周知している。 2.ホームページ内に毎月のおたより、献立表をアップしています。	毎月のおたより、献立表などをホームページでお知らせしています。今後もギリギリの掲示にならないように努めていきます。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	38 個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		1.プリントの渡し間違いをしてしまったので、しっかり確認を行っていきように心がけている。	ダブルチェックを行うなど、個人情報の取り扱いについては十分注意していますが、プリントの間違い等、ご迷惑をおかけしてしまったこともあり、大変申し訳なく思っております。今後、このようなことがないように、十分配慮していきたいと思っております。
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		1.情報を共有する際に認識の違いなどが出ないように大切なことは直接お会いした時かお電話で話している。また、日々の連絡帳でも二重確認をして内容に不適切な表現がないか分かりやすく説明が出来ているかを確認している。	子どもたちについては、視覚的に提示したり、スモールステップで参加を促すなどそれぞれにあった支援を工夫しています。連絡帳やお電話での情報共有など、今後も分かりやすい表現を心掛けて連携がとれるようにしていきたいと思っております。
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		1.招待することはないのですが、総合防災訓練がある時には、(非常ベルが鳴る為)子どもたちが作った案内を近隣の方に配り、お知らせしています。 2.毎年公開療育を開催し、他の事業所の方に見に来て頂く場を設けている。	現在、地域住民を招待する等の行事は行っていませんが、何か機会がありましたら、地域の方と連携がとれるような関係作りをしていきたいと思っております。
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		1.年に1回、警察署の方に来て頂き、防犯訓練を行っている。 2.定期的な避難訓練を行い、職員の動き等を確認し、保護者にも周知している。	マニュアルに沿って、訓練等を行っています。今後も、危険な状況を想定した訓練をしっかりと定期的に行いながら、緊急時に備えていきます。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		1.毎月、火事や地震等を想定した避難訓練を行っている。 2.毎月、避難訓練を実施する中で避難方法や避難場所を確認する場を設けています。	今後も訓練をしっかりと行っていきます。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		1.入園前の面談等で保護者から聞き取りを行う。また、世帯情報等を通して予防接種の情報も得ている。 2.研修の中に緊急時の対応について復習を職員間で行っている。	今後も入園前に、きちんと状況を把握していきます。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		1.アレルギー児に対し、来月のメニューを見ていただいて、アレルギー除去食を提供しています。	今後も食物アレルギーに関して、医師の指示書に基づいて、除去対応などを行っていきます。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		1.ヒヤリハットがあった際には、その際にどういう状況で起こったのか、次が引き起こされないようにするための対策方法をノートに記載し、未然に防ぐために対応しています。ケガなどが起きてしまった際には、保護者への連絡を行い、行った処置についても伝達するようにしています。 2.上長に伝え、ヒヤリハットのノートに詳細を書き、いつも関わる職員や次の日の朝礼などで全体周知している。	ヒヤリハットの事例集を通して、今後も大きな事故やケガにつながらないように、職員一同気をつけていきたいと思っております。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		1.年に1回、虐待の研修を行っている。 2.毎年、法人内の研修で「虐待」に関する研修を取り入れている。	毎年の虐待研修を積み重ねながら、子どもたちの安心安全な暮らしを確保していきます。
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		1.現在、風のことで身体拘束を行う対象児はいません。	

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

○ 「はい」、「いいえ」の欄は、数を記入するのではなく、職員による自己評価結果を踏まえ、職員全員で討議した結果について回答すること。(該当する方に○を記入)